

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-37	高等学校	商業科	財務会計 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
234 TAC	商業731	財務会計 I		

1. 編修の基本方針

- (1) 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、基礎から応用へと段階的に学習を進めることができるように編や章を設定・配置した。また、各章冒頭にその章で学習する内容をカラーイラストと短文で記載し、より深い理解を得られるようにした。(第1号)
- また、そのイラストにおいては、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、男女の社員が協力し合いながら業務を進めている様子を示した。(第3号)
- (2) 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、より実務に配慮した取引例を通じて学習が進められるような例題を設定するとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、取引内容についてより深い理解が得られるよう、解説部分にカラーイラストや図解を取り入れるとともに、仕訳の下には仕訳作成の思考プロセスを示すことにより、考え、理解しながら仕訳を学習できるようにした。(第1号、第2号)
- (3) 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から、基本的な用語について英語表記を行っている。(第5号)
- (4) 自主及び自律の精神を養うという観点から、例題を中心に、章末の取引まとめ、ミニテストまでの内容をつなげ、主体的に学習が進められるよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
口絵	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「いまの日本の会計制度」「連結会計とは」について図解で示すとともに、勘定科目一覧表を示した。(第1号)	口絵1、3、 口絵5～6ページ
	職業及び生活との関連を重視するという観点から、「決算手続き日程例」を示した。(第2号)	口絵2ページ
綴じ込み	幅広い知識と教養を身に付け、職業及び生活との関連を重視するという観点から、会社計算規則にもとづく貸借対照表と損益計算書、株主資本等変動計算書を示した。(第1号、第2号)	綴じ込み1～8
学習のまえに	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、世界経済の現状と、未来のために貢献する必要性、本書の学習を通じて、その一員として活躍することに対する期待について記述した。(第3号)	ま え づ け 《2》ページ

	自主及び自律の精神を養うという観点から、本書の構成を示すことで、主体的な学習ができるよう、配慮した。(第2号)	ま え づ け 《2》《3》 ページ
第1編 財務会計の基礎	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、財務会計の基礎について記述した。(第1号)	2～18ページ
第1章 企業会計と会計公準	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、会計基準について随時まとめるとともに、会計制度上のコンセプトについて適宜図解し、より深い理解が得られるようにした。(第1号)	3～6、11、13 ページ
第2章 企業会計制度	伝統と文化を尊重するという観点から、企業会計基準設定上の流れについて紹介した。(第5号)	17ページ
	職業及び生活との関連を重視するという観点から、一般原則の例示について側注に記述している。(第2号)	12～16ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習内容と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	7、18ページ
第2編 貸借対照表	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、取引の記帳についての基礎的な内容を記述した。あわせて、数字の流れや帳簿の記入方法について理解を深めるため、図解で示した。また、財務諸表上の表示について、論点ごとに掲載した。(第1号)	37～188ページ
第3章 貸借対照表の概要	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、仕訳の下に逐一仕訳の思考回路を示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。(第1号、第2号)	37～188ページ
第4章 資産の分類と評価	個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点から、研究開発費の記述内において、新たなものを生み出すことについての図解を加えた。(第2号)	137ページ
第5章 負債の分類	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、貸借対照表作成における数字の流れを示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。(第1号、第2号)	20～36、189 ～198ページ
第6章 現金預金	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	24、32、36、 46～47、 57～58、 63～64、
第7章 金銭債権		
第8章 電子記録債権・電子記録債務		
第9章 棚卸資産		
第10章 有価証券		
第11章 有形固定資産		
第12章 リース取引		
第13章 無形固定資産		
第14章 研究開発費とソフトウェア		
第15章 引当金		
第16章 純資産(その1)		
第17章 純資産(その2)		
第18章 純資産(その3)		
第19章 貸借対照表の作成方法		

		79～81、 98～101、 113～116、 125～127、 134～136、 141～142、 147～148、 168～174、 180～181、 187～188、 197～198ページ
第3編 損益計算書	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、取引の記帳についての基礎的な内容を記述した。あわせて、数字の流れや帳簿の記入方法について理解を深めるため、図解で示した。また、財務諸表上の表示について、論点ごとに掲載した。(第1号)	217～259ページ
第20章 損益計算書の概要	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、仕訳の下に逐一仕訳の思考回路を示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。(第1号、第2号)	217～259ページ
第21章 損益計算の基準		
第22章 役務の提供と工事契約		
第23章 掛け代金の割引		
第24章 外貨建取引		
第25章 法人税等と税効果会計		
第26章 損益計算書の作成方法		
第27章 その他の財務諸表	職業及び生活との関連を重視するという観点から、役務の提供の記述においては、身近な業種を使用し、例題を作成した(第2号)	217～219ページ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、職業及び生活との関連を重視するという観点から、工事収益を一定期間にわたって計上する場合につき、発展学習として掲載した。その際、例題の設定つき、それまでの記述とシームレスに作成することで、学習者のスムーズな理解につながるよう、心がけた。(第1号、第2号)	221ページ
	他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から、外貨建取引の記述内において、他国のビジネスパーソンとの交流につき図解した。(第5号)	230ページ
	職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、法人税等と税効果会計について記述した。(第2号)	242～259ページ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、損益計算書と株主資本等変動計算書作成における数字の流れを示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。(第1号、第2号)	200～216、 260～266、 267～274ページ

	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	208、216、 222～223、 228～229、 238～241、 256～259、 265～266、 274ページ
第4編 財務諸表の活用 第28章 ディスクロージャー制度 第29章 財務諸表分析	職業及び生活との関連を重視するという観点から、ディスクロージャー制度のあらましについて掲載した。(第2号)	276～277ページ
	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、財務諸表分析について記述した。あわせて、財務分析指標についての理解を深めるため、公式としてまとめるとともに、適宜、図解もあわせて表示した。(第1号)	279～291ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	278、297～302ページ
発展 連結財務諸表 第30章 連結財務諸表	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、職業及び生活との関連を重視するという観点から、連結財務諸表の作成について、発展学習として掲載した。その際、それぞれの仕組みのイラストや、補足説明を側注の吹き出しに掲載し、学習者のスムーズな理解につながるよう、心がけた。(第1号、第2号)	303～327ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	323～327ページ
総合問題	自主及び自律の精神を養うという観点から、第1編～第4編までの学習に対応した演習問題を掲載し、主体的な学習に資するものとした。(第2号)	328～334ページ
付録	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、本文中で学習した法令、会計基準につき、掲載した。(第1号)	335～360ページ
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、補足事項を側注の吹き出しに掲載し、多角的に理解できるようにした。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんだ我が国と郷土を愛する態度を養うという観点から、各編の色づかいにつき、日本の伝統色に配慮して選択するとともに、日常の取引はオレンジ系、決算は黄緑系と、学習内容に応じた色選択をした。 ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、再生紙と植物油インキを使用し、環境に配慮した。 		

- (備考) 1 ※受理番号欄には、申請図書番号を記入する。
2 その他の※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
3 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を

記入する。

- 4 「対照表」欄には、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。
 - ① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。（例：第○号）
 - ② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ（例：○ページ）を記入する。
 - ③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 5 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄には、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
- 6 「編修の基本方針」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 7 別紙様式第5-1号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-37	高等学校	商業科	財務会計 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
234TAC	商業731	財務会計 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

実社会における企業で何が行われているのを把握し、日常の取引の記録から財務諸表の作成までを適正に行う力を養成するという観点から、以下のような工夫を施して編修している。

○第1編では「財務会計の基礎」を学習し、第2編では貸借対照表、そして第3編では損益計算書がらみの取引処理から財務諸表作成までを論点別に解説した。そして第4編では、財務諸表分析についてまとめ、第3編までの財務諸表の作成とはわけて掲載した。

なお、学習内容に応じた章カラーを用い、学習の際、今どういった内容を学んでいるのかが視覚的にわかるようにしている。またこのカラーは、1年次に学習した『簿記』から引き続き利用することで、スムーズに学習を進められるようにしている。

○各章の冒頭では、これから何を学習するのかという導入部分につき、2コマイラストと文章で解説を加えた。その際、すでに学習した内容との関わりもあわせて解説することで、その都度知識の整理がはかれるようにした。

○「取引の記帳」を学習する際、取引状況のイラストを随所にいれることで、学習者にその状況がイメージしやすいようにした。

○仕訳の解説にあたっては、仕訳作成の思考プロセスを入れることにより、丸暗記にならない学習が進められるようにした。あわせて勘定も掲載することで、仕訳からの転記の学習がスムーズに進むようにした。

○帳簿や財務諸表類を解説する際には、図解化するとともに、金額の流れについて矢印などで、学習者が容易に理解できるようにした。

○間違いやすい箇所や重要なポイントについては、側注の吹き出しや囲み記事により、別角度からの解説を加えた。また、書籍内であわせて読むと理解が深まる箇所については、当該箇所を明示することで学習に役立てられるようにした。

○例題を中心に、章末の取引まとめ、ミニテスト、巻末の総合的な記帳問題までの内容をつなげ、これらを利用して反復的に学習することで、学習内容の定着が図れるようにした。

○冒頭の見返しや口絵には、現在の会計制度の図解や、決算手続きの日程例、連結グループの解説図解を掲載し、会計制度をめぐる実際についてイメージしやすいようにしている。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 財務会計の基礎	(1) 財務会計の概要	ページ	1
第1章 企業会計と会計公準	ア企業会計と財務会計 の意義・役割		
第2章 企業会計制度	イ財務諸表の構成要素 ウ会計法規と会計基準		

第2編 貸借対照表	(2) 会計処理	ページ	1
第3章 貸借対照表の概要	ア資産と負債 イ純資産		
第4章 資産の分類と評価			2
第5章 負債の分類	(3) 財務諸表の作成		2
第6章 現金預金	ア資産・負債・純資産 に関する財務諸表		4
第7章 金銭債権			4
第8章 電子記録債権・電子記録債務			2
第9章 棚卸資産			5
第10章 有価証券			6
第11章 有形固定資産			6
第12章 リース取引			4
第13章 無形固定資産			4
第14章 研究開発費とソフトウェア			2
第15章 引当金			2
第16章 純資産（その1）			6
第17章 純資産（その2）			6
第18章 純資産（その3）			3
第19章 貸借対照表の作成方法			7
第3編 損益計算書	(2) 会計処理		1
第20章 損益計算書の概要	ウ収益と費用 エ税		
第21章 損益計算の基準	(3) 財務諸表の作成		3
第22章 役務の提供と工事契約	イ収益・費用に関する 財務諸表		3
第23章 掛け代金の割引き			2
第24章 外貨建取引			4
第25章 法人税等と税効果会計			4
第26章 損益計算書の作成方法			7
第27章 その他の財務諸表			5

第4編 財務諸表の活用	(1) 財務会計の概要		1
第28章 ディスクロージャー制度	ア企業会計と財務会計の意義・役割		
第29章 財務諸表分析	(4) 財務諸表分析の基礎		5
	ア財務諸表分析の意義		
	イ財務諸表分析の方法		
発展 連結財務諸表			
第30章 連結財務諸表			
計			105

- (備考) 1 ※受理番号欄には、申請図書番号を記入する。
- 2 その他の※欄は検定申請時には記入せず、検定決定後に提出する際に記入する。
- 3 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
- 4 「対照表」欄には、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ（例：○～○ページ）を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 5 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要な教科、種目については空欄でよい。
- 6 「編修上特に意を用いた点や特色」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 7 別紙様式第5－2号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-37	高等学校	商業科	財務会計 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
234 TAC	商業 731	財務会計 I		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
303頁～ 327頁	第30章 連結財務諸表	1	「財務会計Ⅱ」 (4) 企業集団の会計 ウ 連結財務諸表の作成	25
合 計				25

- (備考) 1 ※受理番号欄には、申請図書番号を記入する。
- 2 その他の※欄は検定申請時には記入せず、検定決定後に提出する際に記入する。
「ページ」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述の掲載ページを示す。
- 3 「記述」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述に付された表題等を示す。
- 4 「類型」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述について、以下の分類により該当する記号を記入する。
- ・ 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容…… 1
 - ・ 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容…… 2
- 5 「関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項」欄には、当該学年等の学習指導要領の内容や内容の取扱いに示すどの事項と関連があるのか分かるように記入する。
- 6 「ページ数」欄には、発展的な学習内容の記述が掲載されているページ数を記入する。ページの数え方は以下のとおりとする。「合計」欄には発展的な学習内容の記述の合計ページ数を記入する。
- ・ 0. 25ページ以下… 0. 25ページ
 - ・ 0. 25ページを超えて0. 5ページ以下… 0. 5ページ
 - ・ 0. 5ページを超えて0. 75ページ以下… 0. 75ページ
 - ・ 0. 75ページを超えて1ページ以下… 1ページ
- 7 別紙様式第5-3号の分量は2ページ以内とする。